

ガリラヤのほとり ネット版 vol.3

『ガリラヤのほとり ネット版 vol.3』では、2012年12月1日に東京聖三一教会で行われました、「アルディ・ナ・ウペポ—東アフリカの子供を救う会—」の報告会について配信いたします。アルディ・ナ・ウペポの活動は、東アフリカの慢性的貧困と国際紛争や部族間の紛争等様々な逆境の犠牲となっている子供たちに援助の手を差し伸べることを目的として1990年に始められました。スワヒリ語で「大地と風」を意味するアルディ・ナ・ウペポは、母なる大地であるアフリカのイメージ「大地」と神の働きを意味する「風」が名前の由来となっています。困難なうちにある東アフリカの幼き兄弟姉妹のために風となり、風に託してより良き変化を求めたいという思いでこの名前がつけられました。そして、より多くの人と一緒に風となって参加して欲しいという願いも込められています。今回の報告会では、アルディ・ナ・ウペポ代表の吉田千鶴さんを始め、事務局長の千村雅信さん、コーディネーターの荒川勝巳さん、フォトグラファーとしてご活動をされている桜木奈央子さんによって、写真のスライドや現地の映像を交えてのお話しがされました。この『ガリラヤのほとり ネット版 vol.3』を通し、報告会にいらっしやれなかった皆さまにも「アルディ・ナ・ウペポ—東アフリカの子供を救う会—」の活動について知っていただけたらと思います。HP内のみでの発信となります『ネット版』を各教会お一人お一人さまに、ご覧いただければ幸いです。

感謝箱献金事務局（コア）

アルディ・ナ・ウペポ報告会

日時：2012年12月1日

13時半～15時半

場所：東京聖三一教会

講師：

アルディ・ナ・ウペポ代表：吉田千鶴氏

アルディ・ナ・ウペポ事務局長：千村雅信氏

コーディネーター：荒川勝巳氏

フォトグラファー：桜木奈央子氏



左から；荒川勝巳さん、吉田千鶴さん、桜木奈央子さん

■グルとは？

- ・ウガンダ北部地区の中心地

面積：24,1km²

人口：3,270 万人

言語：英語、ルガンダ語

民族：ブガンダ族、アチョリ族

- ・1962 年、イギリスより独立した。

■1986 年の内戦

- ・反政府ゲリラ軍の襲撃

→子供を誘拐し、陸軍で子供兵士として働かせる。約 30 万人が子供兵士になった。

小さな子供は戦えないため、大人兵士の身の回りの世話をさせられ、死体から銃を取る、畑から野菜を盗むといったことをさせられる。

→誘拐される際、目の前で親を殺された経験をした子供が約 30 万人いる。

残酷な経験がその後も心の深い傷として残る。

- ・住民の 80%が避難民キャンプで生活する。
- ・子供たちは腫瘍を持っていたりも病院に行くことができず、腫瘍も一緒に成長してしまった。

⇒NGO の立ち上げ

⇒内戦で苦しんでいるグルの子供たちを守るために、夜を安心して寝ることが出来る避難シェルターを建設(2004 年)。

■避難シェルター

- ・電気、水道が引かれていない所での建設の苦労
- ・子供たちの病気の問題→多くの子供が持っていた皮膚病が他の子供にも伝染するのではないか？
- ・子供兵士として生活していたことによるトラウマ

→当時を思い出すと震えてしまう。夜中に泣きながら徘徊する。

⇒寝る前に焚火を起し、その周りで踊って子供たちのパワーを発散させる。

→1 年後、夜泣きや徘徊が無くなる。

■エイズの問題

- ・目が見えなくなる、立てないなどの症状がある。
 - ・患者数が減らず、エイズと一緒に生きて行くしかないという思いを抱えている。
- 清潔な環境、充実した食事を取ることが出来れば発症をしないこともある。

■現在のグル

- ・2007 年の停戦後、グルは平和を取り戻した。経済的にも発展を遂げつつある一方で、物価上昇などから貧富の差が生まれる。
- 治安の悪化
- ・教育を受けていない若者が多くいる。
- 必要なのは教育

■テオコノ職業訓練校(2007 年から運営)

- ・ 2007 年の停戦後、避難シェルターの子供たちの自立のために職業訓練校を開設する。
- ・ 金銭的な理由で多くの若者が学校に通っていない現実がある。
→ラジオでのアナウンス、スタッフの調査などで生徒を募集。
→若者が職業を身につけることは、彼らの子供たちに教育を受ける機会が生まれることへと繋がる。
- ・ 登録生徒数：約 50 名(しかし、家事があり毎日来られない生徒が多く、平均 20～30 名が来校。)
- ・ 赤ん坊を背負いながら、片道 2 時間をかけて通う学生もいる。(雨季は道が川のようになる。)
- ・ 給食支援
- ・ 30 分に 1 度、掃き掃除がされ、学校がとても綺麗に使われている。
- ・ テオコノ訓練校経営自立に向けた資金作り→現地での必需品である蠟燭と石鹼を作り売る。

(1) 洋裁職業訓練

- ・ 型紙は使わず、頭の中に入っているデザインを直接生地を書く。
- ・ 修理のテクニックを学ぶ。→修理作業の需要がある。
- ・ 2010 年から成績優秀な卒業生を 10 名選び、ミシンの贈与をしている。また、2012 年からミシンの貸出をしている。→卒業後の生計を立てることが出来る。

(2) 蠟燭作り

- ・ 蠟を溶かして型に入れ、20～30 分程度冷やす。



(3) 洗剤作り

- ・ 1～2 時間混ぜ続けることで洗剤ができる。



■マーケットでの出店

- ・アルディ・ナ・ウペポからミシンの贈与、貸出を受けた卒業生が出店している。
→しかしながら、卒業生がいかにして収入を得られる仕事に付けるかという課題がある。
- ・衣類の修理作業をして少しずつのお金を稼ぐ。



○報告会終了後、ミニバザーが行われました。



ミニバザー会場にかけられた看板
両脇にかかっているのは、ビーズでできた眼鏡ストラップ



ミニバザーの様子